



対談 企画

小諸市長 小泉俊博

「夢に向かう姿勢」

当企画は、小諸市出身または市にゆかりのある方で、市外を拠点にさまざまな分野で活躍されている方を中心に対談を行います。小諸市を外から見た視点で語っていただき、市民の皆様と市の現状や課題を共有していきます。（不定期での掲載となります。）

企画課 情報戦略推進係

- 市** お久しぶりです（笑）。
- 修** 小諸を離れてどのくらい経ちますか？
- 市** 18歳のときだから35年になりますね。
- 修** 久しぶりに帰省して、今と昔の小諸を比較しての印象はどうですか？
- 市** 中学生のころは「街!!」って思っていたけど今は思わないかもしれない。いろんな地域を見ってきましたが、小諸だけではなくて今、地方はどこも苦戦しているような気がします。ただ、都会とか街じゃないからダメということではなく、魅力的なまちづくりができているかどうかが大切だと思います。イギリスに長く居ましたが、ロンドン以外はほとんど田舎。だけど、その田舎であるところが、とても素敵で魅力的に感じました。それぞれの村に特徴がありました。
- 市** そこに住んでいる人たちは、自分たちの村のことをどう思っていました？
- 修** 自分たちの村に対して、誇りや想いを持っています。うれしそうに自分の村のことを話しますね（笑）。
- 市** 他の町との比較ではなく、自分たちの町を大切にしたいが強いんですかね。
- 修** そうだと思います。決して便利などころではないけど、何か素敵に感じさせるものを持っていてまた行ってみたいかなんですよね。そういう意味では小諸にも多くのお宝があるように感じます。
- 市** ある人に言わせれば、こんなに野菜が美味しいところは無いといい、都会で食べる野菜とは全然違うと。私たち市民は、小諸にいるから当然に感じているけど、いろんなところに魅力が転がっていると思います。
- 修** 以前、教授の講演会で話があった「ふるさとから遠くに出ることは自立を促す」という言葉がありました。どういう意味が込められていますか？
- 市** 私が当時、親元を離れて九州へ行ったときは、遠くに行けばいくほど独立した男になれる、とか思ったのですが、それはともかくとして、ふるさとから遠くに離れたことで解ったこと・学んだ事は多く、この経験が今の私をつくっていると思います。違う環境、できればものすごく違う環境に自身を置くことはとても大切です。そのためにはまず自分で何か動く、少し無理することは大切だという意味です。
- 市** 第1志望の人生じゃなくても第2志望の人生でも、その場で与えられたことを一生懸命やれば人生は開けてきますよね。
- 修** 第1志望の人生なんてなかなかないですよ。例えば、僕らからは成功しているように見える人も、実は第1志望の人生じゃなかったりしますからね。